

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

庄内川流域は、本州のほぼ中央部、岐阜県東濃地方と愛知県尾張地方に東西に広がっており、起伏量の少ない山間地の盆地と渓谷を流下する上流域、平野部に出て蛇行しながら流下する中流域、名古屋市を中心とした市街地を流下する下流域からなっており、河口部には、河口干潟とヨシ原が広がり、国内最大級のシギ、チドリ類の渡来地として有名な藤前干潟^{ふじまえひがた}が位置している。

(1) 上流域

上流域は、標高 700m 付近の源流から濃尾平野^{のうび}に至る標高 200m 程度までの山地、盆地、及び渓谷を含む区域であり、盆地部と川沿いに耕地、市街地が見られるが山林を主体とする地域である。

源流域山地一帯では、スギの人工林、アカマツ等の針葉樹林、コナラ等の落葉樹林が主体となっている。また水源の夕立山^{ゆうだち}には、クロマツの人工林が分布している。

流域の植生は、古くから美濃焼などで知られる地域であることから陶磁器生産のための薪炭林(落葉広葉樹-常緑広葉樹林、落葉広葉樹林)や近年の砂防事業に伴う針葉樹林(アカマツ等)が多く分布し、二次林の多い地域となっている。盆地部は耕作地、市街地が分布している。



図-2.1 夕立山

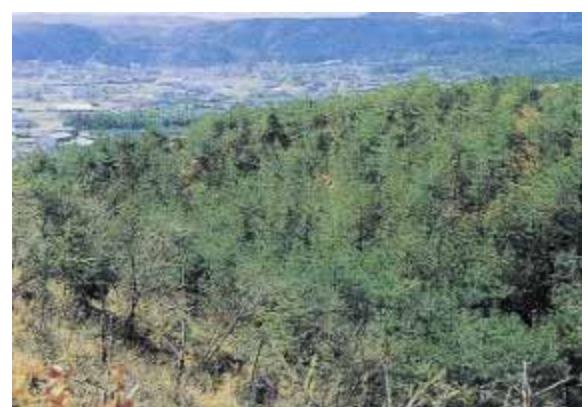


図-2.2 砂防事業（山腹工）による
針葉樹林

また、動物相では、オオタカやハイタカ、ミサゴ等の猛禽類^{もうきんるい}、ヒメカシアオイを食草とするギフチョウやハッチョウトンボ、国指定天然記念物のオオサンショウウオ、ネコギギ等が生息している。

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea

(トンボ目トンボ科)

・名古屋市 RDB/準絶滅危惧

【分布】本州と九州に分布。

【生息場所】滲出水のある浅い水たまり、水ヶ原等に生息。

【分布時期】平地では5,6月、山地では7,8月。

出典:原色昆虫大図鑑Ⅲ



ネコギギ *Pseudobagrus ichikawai*

(ナマズ目ギギ科)

- ・国指定天然記念物
- ・環境省 RDB/絶滅危惧 IIB類
- ・愛知県 RDB/絶滅危惧 IIB類
- ・岐阜県 RDB/絶滅危惧 II類

【分布】日本固有種で伊勢湾及び三河湾に注ぐ河川に分布。

【生息場所】ゆるやかな流れの浮き石の下や岸辺のヨシ原等の隙間に生息。

【産卵時期】6~7月頃。

出典:日本の淡水魚

(2) 中流域

中流域は、標高 200m 付近から下流の濃尾平野に広がる台地を主体とした区域で、川沿いに一部自然堤防が分布し、宅地化が進んでいる地域である。

流域の植生は、中流域はシイやカシ等の照葉樹林とスギの人工林が広く分布し、丘陵地はアカマツ林、ネザサ・ツツジ等。平野部は耕地、市街地が分布している。

また、動物相では、オオタカやミサゴ等の猛禽類、タヌキ、キツネ等の哺乳類が河川区域を餌場として利用している。



36 新東谷橋・裏谷橋 撮影: 平成18年3月13日



ミサゴ *Pandion haliaetus*
(タカ目タカ科)

- ・環境省 RDB/準絶滅危惧
- ・愛知県 RDB/準絶滅危惧
- ・名古屋市 RDB/準絶滅危惧

【分布】留鳥として全国に分布。
【生息場所】海岸、大河川、湖等に生息し、魚を捕らえる。
【産卵時期】4月頃。

出典:日本の野鳥



タヌキ *Nyctereutes procyonoides*
(ネコ目イヌ科)
・名古屋市 RDB/絶滅危惧 II 類

【分布】全国に分布。
【生息場所】郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息。亜高山帯に生息することは少ない。
【繁殖時期】春季。

出典:日本の哺乳類

(3) 下流域

下流域は、標高 50 m 以下で、自然堤防、後背湿地が流域に広がり、また、三角州や干拓地などの低地を含む河口までの地域である。

下流域は、名古屋市を擁し大部分が市街地や農地(水田や畑)となっている。

河口部には、藤前干潟が形成され、シギ・チドリ類をはじめとした水鳥類が多く飛来する。



ホウロクシギ

Numenius madagascariensis

(チドリ目シギ科)

- ・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類
- ・愛知県 RDB/絶滅危惧 II 類
- ・名古屋市 RDB/絶滅危惧 II 類

【分布】ユーラシア大陸東北部で繁殖し、日本には旅鳥として春秋に渡来。

【生息場所】海岸や河口の干潟に生息。長い嘴を泥の中にさしこんで大型のカニを捕まえる。

出典:日本の野鳥



コアジサシ *Sterna albifrons*

(チドリ目カモ科)

- ・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類
- ・愛知県 RDB/準絶滅危惧
- ・岐阜県 RDB/絶滅危惧 II 類
- ・名古屋市 RDB/絶滅危惧 II 類

【分布】本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖する。

【生息場所】広い川や海岸に生息し、コロニーを作つて営巣する。

【産卵時期】4~7月。

出典:日本の野鳥

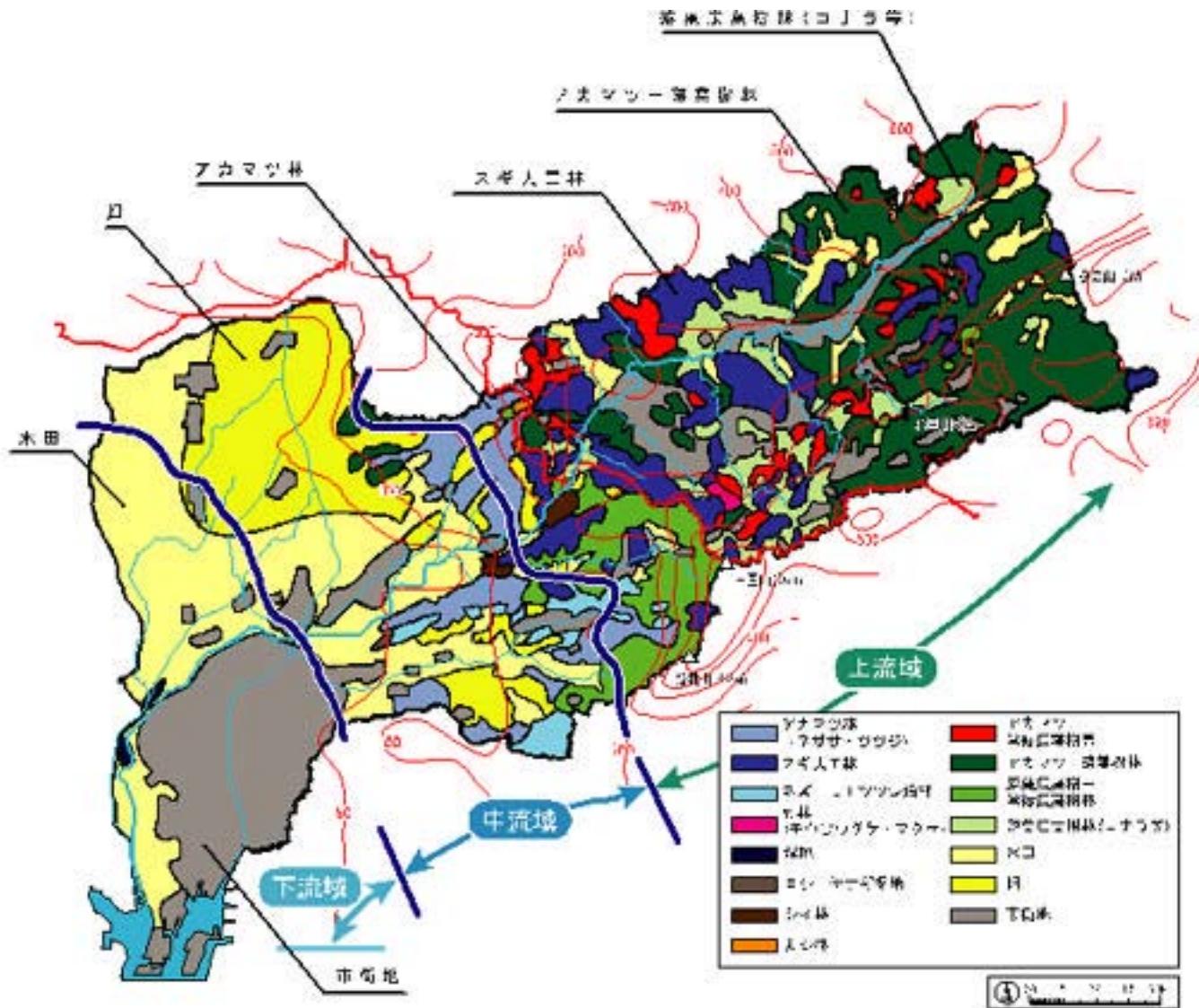


図-2.3 庄内川流域の自然環境(現況植生)

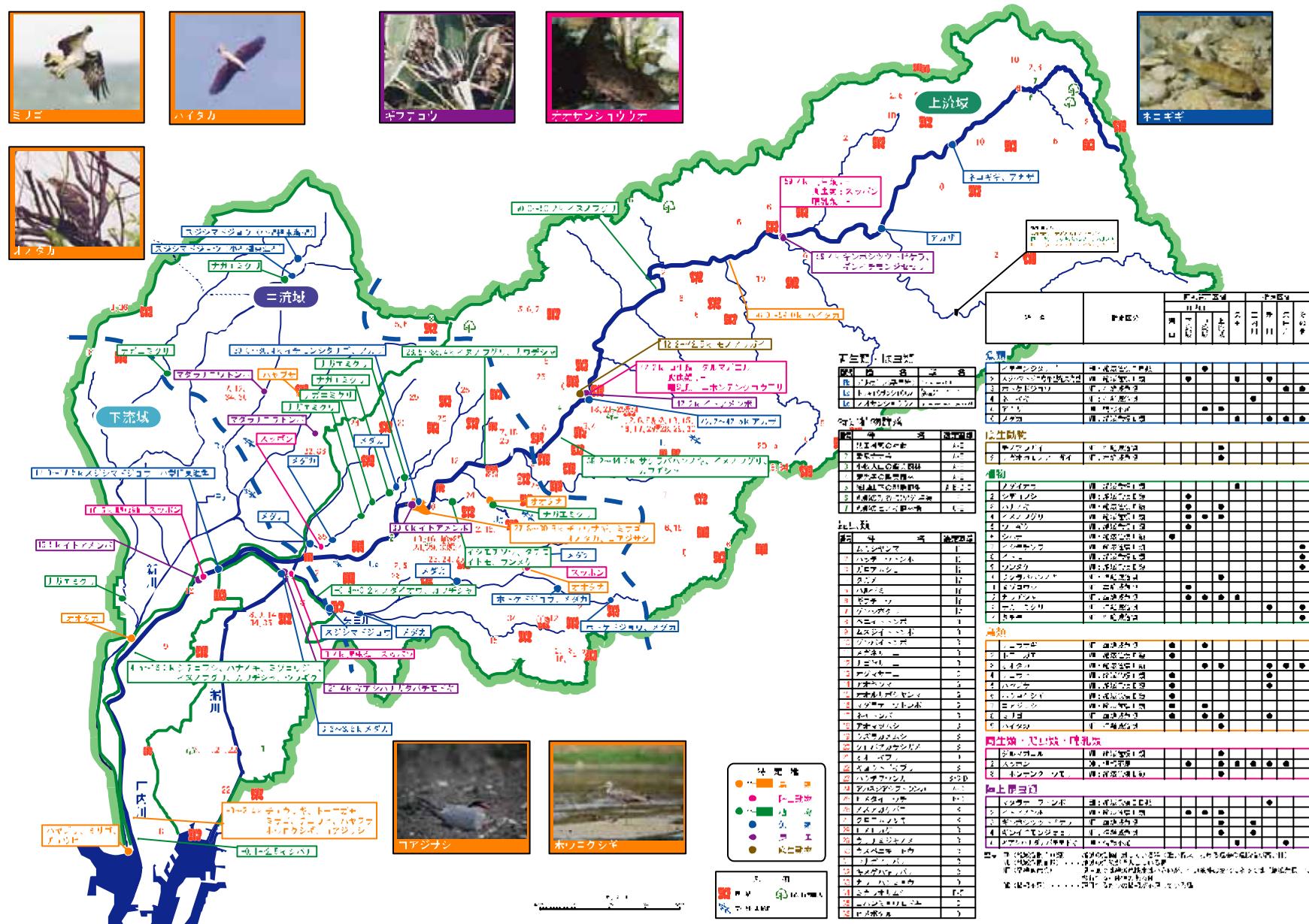


図-2.4 庄内川流域の自然環境(動物)

出典: 第2~3回自然環境保全基礎調査(環境省)

河川水辺の国勢調査 H5~H15(庄内川河川事務所、愛知県、岐阜県)

2-2 河川の自然環境

庄内川は、山間地の盆地や渓谷を流下する上流部、段丘部を流下する中流部、平野部を流下する下流部、さらに干拓地を流下する河口部から構成される。

特に、下流部は名古屋市街地を流れ、都市部に残された貴重な自然環境となっている。

(1) 上流部

急峻な山地は少なく、自然のアカマツやコナラの群落やスギの人工林などで覆われており、瀬と淵が連続する渓谷部には、ヤマセミ、カワガラスなどの鳥類が見られる。土岐、多治見の盆地部では、市街地の中心を流下し、河岸にはツルヨシ群落が見られ、アカザやカワヨシノボリなどが生息している。

魚類は、カワヨシノボリやアカザが生息し、アブラハヤ、ドンコ等が上流部でのみ確認されている。

底生動物は、カゲロウ類やトンボ類をはじめ、トビケラ類といった渓流の流水環境を好む水生昆虫が生息している。

植物は、河岸が渓流となっているために岩場が発達し、ネコヤナギ群落やカワラハンノキ群落等の渓畔林が見られる。斜面部にはコナラ群落等の二次林やスギの人工林が広く分布している。また、水際部には、流路が蛇行していることから礫河原が広く形成され、ツルヨシ群落等が広がっている。

鳥類は、周辺に広がる樹林地環境を反映してヤマセミやカワガラス等の渓流性の種、アオゲラ等の山地性の種が多く生息している。水際部の礫河原ではイカルチドリやセキレイ類等が多数生息し、冬季にはオシドリが多く見られる。

しかし、多治見市付近では市街地内を流れる事から、人里周辺に生息するツバメやスズメの個体数が顕著に多く見られる。なお、新土岐川橋はイワツバメの集団繁殖地になっている。

両生類・爬虫類・哺乳類は、樹林地が水際より連続しているためカジカガエルやニホンリス、ヒメネズミ等が生息している。

陸上昆虫類は、高水敷の草地ではカメムシ目やテントウムシ科、バッタ目が多く生息している。しかし、周辺環境を反映して樹林地に生息するコウチュウ目やチョウ目も多く見られる。



カワヨシノボリ
Rhinogobius flumineus
(スズキ目ハゼ科)

【分布】日本固有種で、神通川及び富士川以南の本州、四国、九州北部に分布。

【生息場所】河川中上流部の淵の周囲から平瀬にかけての流れの緩やかな場所。

【産卵時期】5~8月に石の下面に産卵。

出典:日本の淡水魚



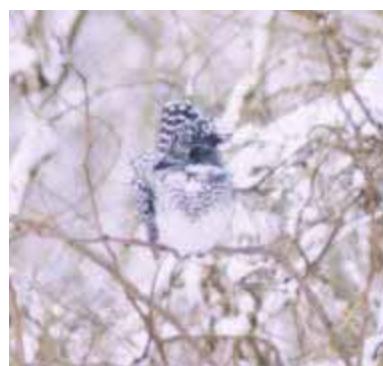
アカザ
Liobagrus reini
(ナマズ目アカザ科)
・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類
・愛知県 RDB/準絶滅危惧

【分布】日本固有種で、宮城县、秋田県以南の本州、四国、九州に分布。

【生息場所】水の比較的きれいな河川の中流から上流の瀬の石の下や間に生息。主に夜間に活動する。

【産卵時期】5~6月に石の下に産卵。

出典:日本の淡水魚



ヤマセミ
Ceryle lugubris
(ブロウカウ目カワセミ科)
・愛知県 RDB/絶滅危惧 II 類
・岐阜県 RDB/準絶滅危惧

【分布】全国に留鳥として分布。

【生息場所】山地の渓流や湖沼に生息している。淵や岸に突き出た枝の上にとまり、ダイビングして魚を捕らえる。

【産卵時期】3~6月。

出典:日本の野鳥



ツルヨシ
Phragmites japonica
(イネ科)

【多年草】

【分布】本州から九州に分布。

【生育場所】上流域砂礫河原の、水の流れの弱い部分に生育する。

【花期】8~10月頃。
出典:川の生物図典



コナラ
Quercus serrata
(ブナ科)

【落葉高木】

【分布】全国に分布。

【生育場所】陽当たりのよい山野に生育。高さ 15~20m。

【花期】4~5月。
出典:日本の樹木



カワガラス
Cinclus pallasii
(スズメ目カワガラス科)
・愛知県 RDB/準絶滅危惧

【分布】全国に留鳥として分布。

【生息場所】河川の上流部に生息し、流れの速い浅瀬に潜って水生昆虫を捕らえている。

【産卵時期】2~6月。

出典:日本の野鳥



スギ
Cryptomeria japonica
(スギ科)

【常緑高木】

【分布】本州、四国、九州に分布。

【生育場所】広く自生するとともに、有用樹種として多く植林されている。

【花期】4月頃。
出典:日本の樹木

(2) 中流部

広い河川敷が発達し、河原にはオギ群落、カワヤナギ群落が見られる。河道は、瀬と淵、砂礫の州が分布する多様な環境が形成されており、砂礫地に営巣するチドリ類などが見られる。旧河道沿いの一部に自然堤防や後背湿地が分布していたが、近年では宅地等の整備が進んでいる。

魚類は、純淡水魚が大部分を占め、オイカワ、アユ、カワヨシノボリ等が生息している。

底生動物は、カゲロウ類やトンボ類をはじめ、トビケラ類といった瀬淵の連続する流水環境を好む水生昆虫が生息している。

植物は、水際にはカワヤナギ低木群落等のヤナギ林、オギ群落等の湿生草地が分布している。一方、高水敷にはエノキ群落やオニグルミ群落等の樹林地が形成されている。また、陸地化した河原の部分にはハリエンジュ(外来種)が分布している。

鳥類は、高水敷の草地にはスズメや水際の低木林にはヒヨドリ等が多く生息している。点在する砂礫地には、コチドリやイカルチドリ等が見られ、サギ類やカモ類も休息場として利用している。冬季にはオオタカやノスリ等の猛禽類も見られる。

両生類・爬虫類・哺乳類では、水際の高茎草地にカヤネズミが生息している。

陸上昆虫類は、草地に依存するカメムシ目や水際のヤナギ類に依存するヤナギツヤカスミカメ等が見られる。また、比較的起伏の激しい地形では出水時の水が溜まっていると考えられる池状の場所もあり、止水性のトンボ類も見られる。



カワヤナギ
Salix gilgiana
(ヤナギ科)

【落葉低木】
【分布】全国に分布。
【生育場所】河川の中流から下流域の泥湿地に生育。氾濫時の流路跡等の裸地に多い。
【花期】3~5月。

出典:川の生物図典



オギ
Miscanthus sacchariflorus
(イネ科)

【多年草】
【分布】全国に分布。
【生育場所】泥の堆積した河原や水辺の湿地に生育。河川の中~下流の粗砂から砂泥のところに適す。
【花期】7~9月。

出典:川の生物図典



イカルチドリ
Charadrius placidus
(チドリ目チドリ科)
・愛知県 RDB/準絶滅危惧

【分布】全国に留鳥として分布。
【生息場所】河川中流部の砂礫河原や中州に生息し、冬季には水田にも現れる。
【産卵時期】3~7月。砂礫地の地上に営巣する。

出典:日本の野鳥

(3) 下流部

名古屋市などの市街地が広がり、緩やかに蛇行する河道は、水際にヨシ群落などの湿生植物が分布するなど、都市河川でありながら、自然豊かな環境を有する貴重な空間となっている。高水敷は、農地、都市計画緑地、散策路や高校などのグラウンド、ゴルフ場などに利用されている。

魚類は、枇杷島橋より下流が感潮区域であることからオイカワ、ギンブナ等の淡水魚、ボラ等の汽水海水魚が見られる。^{かいゆうぎょ}回遊魚としては、ウナギ、アユ、カマキリ等が見られる。

底生動物は、イトミミズ科やシマイシビル等の汚濁に強い種が多く見られる。

植物は、畑、人工草地、公園、グラウンド等の人工的な環境が広範囲に見られ、ヨシ群落やオギ群落の他、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物も広く分布している。

鳥類は、樹林性のキジバト等が多く生息している。点在する砂礫地では、コチドリ等が生息しており、水際ではゴイサギのねぐらが形成されている。庄内緑地内の池ではカルガモやバン、カワセミが生息し、冬季にはカモ類が多く見られる。

両生類・爬虫類・哺乳類では、水際の高茎草地にカヤネズミが生息し、水際にはウシガエルやヌートリアが生息している。

陸上昆虫類は、草地に多く見られるカメムシ目やハチ目が多く生息している。ヨシ原に見られるヒメテントウ類も多く見られる。またエノキが生育している場所では、葉を採餌するヤマトタマムシや幼虫の^{しょくじゅ}食樹としてゴマダラチョウ等も生息している。



ヨシ

Phragmites australis
(イネ科)

【多年草】

【分布】全国に分布。

【生育場所】河川の中下流から河口部にかけての水際付近に生育。低地の湿地に多く、水分を含んだ砂泥質に生育する。

【花期】8~10月。繁殖は種子と地下茎で、地下茎が主体。

出典:川の生物図典



カワセミ

Alcedo atthis
(ヅツボウサウ目カワセミ科)

【分布】全国に留鳥として分布。

【生息場所】平地から山地の水辺に生息し、水中にダイビングして魚を捕らえる。

【産卵時期】3~8月。水辺の土の崖に巣穴を掘って営巣する。

出典:日本の野鳥

(補足)矢田川

また、名古屋市の北部を流れる矢田川は、市街地を流下することから、都市河川としての様相を呈し、高水敷には樹木はほとんど見られずに草地が広がり、グラウンドや河川公園等が広範囲に整備されている。低水流路には砂礫地が部分的に形成されている。

魚類は、オイカワ、コウライモロコが多く見られる。またヤリタナゴやメダカ等の緩やかな流れを好む種も生息している。

底生動物は、水際の草地や樹木にコシボソヤンマが見られる。

植物は、グラウンドや河川公園が整備され人工草地が広がっているものの、ノダイオウやカワヂシャ等の湿性の植物も生育している。

鳥類は、スズメ、ムクドリ等の主に人里に生息する種が多く見られる。

両生類・爬虫類・哺乳類では、水際の高茎草地でスッポンやカヤネズミが生息している。

陸上昆虫類は、高水敷のほとんどが背の低い草地であり、樹木が少ないために草地性のカメムシ目が多く生息している。また開けた草地や耕作地にはチョウ類が多く見られる。



メダカ
Oryzias latipes
(ダツ目メダカ科)
・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類
・愛知県 RDB/準絶滅危惧
・名古屋市 RDB/絶滅危惧 II 類

【分布】本州以南から沖縄まで分布。
【生息場所】平地の池や水田、用水、河川下流部の流れの緩い場所。
【産卵時期】4~8月頃。
出典:日本の淡水魚



カワヂシャ
Veronica undulata
(ゴマノハグサ科)
・環境省 RDB/準絶滅危惧

【越年草】
【分布】全国に分布。
【生育場所】水辺や水田に生育する。
【花期】5~6月。
出典:日本の野草

(4) 河口部

河口部は、干潟とヨシ原が広がる塩性湿地が形成され、シバナなどの植物も確認されている他、水鳥をはじめ多様な生物を育んでいる。その中でも河口部の干潟は、国内最大級のシギ、チドリ類の渡来地として、ラムサール条約湿地に登録されている。



魚類は、マハゼ等のハゼ類やボラ等の汽水海水魚が大部分を占めている。

底生動物は、貝類やゴカイ類といった汽水性の種が多く生息している。

植物は、潮止め堰がないために塩沼地が発達しておりヨシ群落が広く分布するほか、シオクグ群落、イセウキヤガラ、シバナが分布している。

鳥類は、干潟を主な採餌場とするハマシギやホウロクシギといったシギ・チドリ類が多数見られるほか、水域では冬季を中心にカモ類、カモメ類も多い。導流堤では1年を通してカワウが生息している。

両生類・爬虫類・哺乳類は、ヨシ原にカヤネズミが生息している。

陸上昆虫類は、バッタ目が草地や裸地で多く見られる。

草地や耕作地等の開けた環境が多く見られることからチヨウ類の個体数が多い。



シバナ

Triglochin maritimum
(ホロムイソウ科)
・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類
・愛知県 RDB/準絶滅危惧
・名古屋市 RDB/絶滅危惧 IB 類

【多年草】

【分布】全国に分布。

【生育場所】河口や干潟等の塩分を含む湿地に生育する。

【花期】5~10月。

出典:日本の野草



ハマシギ

Calidris alpina
(チドリ目シギ科)

【分布】旅鳥または冬鳥として全国に分布。

【生息場所】海岸の干潟に多く、干潟では泥の上を歩き回り、嘴でゴカイ等を捕らえる。

出典:日本の野鳥



カヤネズミ

Micromys minutus
(ネズミ目ネズミ科)
・愛知県 RDB/絶滅危惧 II 類
・名古屋 RDB/絶滅危惧 IB 類

【分布】本州の太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県以南、四国、九州に分布。

【生息場所】イネ科が密生し水気のあるところに多い。

【産卵時期】春と秋。イネ科植物の葉を編み、鳥が作るような球形の巣を作る。

出典:日本の野鳥

藤前干潟の概要

1. 所在地 愛知県名古屋市及び海部郡飛島村 あまぐんとびしまむら
2. 面積 323ha
3. ラムサール条約の「国際的に重要な湿地に係る登録簿」への登録年月日
平成14年11月18日
4. 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークへの参加日
平成16年8月1日

5. 特色

- (1) 名古屋港に流入する庄内川、新川、日光川の河口干潟を中心とする区域で、伊勢湾奥部に残された唯一の大規模な干潟である。
- (2) 政令指定都市に位置する初のラムサール条約登録湿地である。
- (3) 特にシベリア等北半球の繁殖地とオセアニア等南半球の越冬地を往復するシギ、チドリ類の中継地として国際的に重要である。
- (4) 日本国内でも最大規模のシギ、チドリ類の中継地である(11千羽2000年春季)。

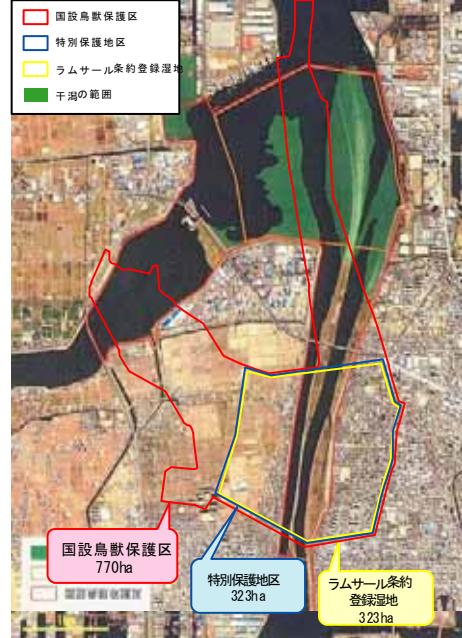
6. ラムサール条約登録湿地の資質

登録湿地の基準のうち、下記の4つの基準を満たしている。

- (1) 絶滅のおそれのある種が定期的に利用している(カラフトアオアシシギ、サンカノゴイ、ツクシガモ、セイタカシギ等)。
- (2) シギ、チドリ類の中継地として、ライフサイクル上の重要な段階を支えている。
- (3) シギ、チドリ類をはじめ2万羽を超える水鳥を定期的に支えている。
- (4) ダイゼン、ハマシギ等シギ・チドリ類7種について、東アジア地域個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている。

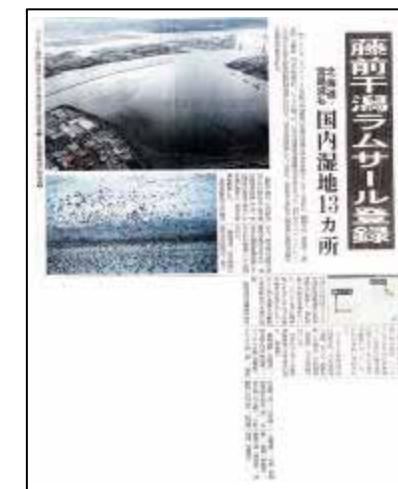
7. 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワークへ参加基準

- (1) 定期的に2万羽を越える渡り性シギ・チドリ類が利用している。
- (2) 定期的に特定の種(または亜種)の推定個体数の1%を越えるシギ・チドリ類が利用している。
- (3) 絶滅のおそれのある種(亜種・地域個体群)に属する渡り性のシギ・チドリ類がある程度利用している。



藤前干潟のラムサール条約湿地登録までの経緯

平成11年2月	名古屋港港湾計画において、廃棄物処理用地等として埋め立てされる計画(昭和67年7月)であったが、近年の一般市民の環境への注目による機運から、名古屋市議会臨時会にて埋立事業は中止とした。
平成12年春季	環境省による国内主要渡来地におけるシギ・チドリ類渡来地の出現状況で藤前干潟が国内1位の10,866羽が記録された。
平成12年12月11日～平成14年6月5日	国土交通省と愛知県は、平成12年9月洪水(東海豪雨)に対する激特事業の実施にあたり、庄内川・新川を考へる地域懇談会(全6回)を開催し、河川施設面への配慮や親水性確保のあり方および庄内川・新川の中長期的な治水対策のあり方について検討した。
平成13年10月3日～平成14年9月14日	環境省は、藤前干潟のラムサール条約への登録を目指し、藤前干潟保全活用構想検討会(全5回)を開催し、貴重な自然環境を良質な状態で次世代に継承とともに、ラムサール条約の理念のひとつであるワイスユース(賢明な利用)を目指し、積極的に活用していく方策を検討した。
平成14年5月27日～7月8日	国設鳥獣保護区の設定にあたっては、地域住民から治水対策に対する影響が懸念されたため、国土交通省、環境省および愛知県は地域住民に対して治水事業になんら影響がないことを説明した。
平成14年10月3日	環境省が藤前干潟鳥獣保護区(A=770ha)を指定。環境省が藤前干潟を国設鳥獣保護区特別保護地区(A=323ha)に指定。※鳥獣保護区は、鳥獣保護法に基づき、鳥類や動物を守り繁殖を促すために指定されている地域で、鳥獣の捕獲が禁止されている区域である。環境大臣が設定する国設鳥獣保護区と、県知事が設定する県設鳥獣保護区との2種類がある。さらに、鳥獣保護区特別保護地区は、保護区域内に指定され、捕獲禁止以外に、樹木伐採や埋立時の環境大臣や県知事への許可を受ける必要がある。
平成14年11月18日	藤前干潟国設鳥獣保護区特別保護地区が、バレンシア(スペイン)で行われた第8回締約国会議でラムサール条約湿地に登録。



ラムサール条約登録の新聞記事(平成14年11月18日朝日新聞)

※ラムサール条約:特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約

水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の賢明な利用を進めることを目的として作成された条約。

※東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク

国際的な生息地ネットワークの構築を通じて、鳥類の渡りルート沿いの生息地の保全を図り、生物多様性の確保と自然資源の持続的利用に資するためのネットワーク。

(6) 庄内川における重要な種

庄内川に生息生育する重要な生物として、既往の河川水辺の国勢調査において確認された、環境省レッドデータブック等によりその生息、生育が危惧されている種（重要な種）は、次頁以降に示すとおりである。

表-2.1 重要な種の選定根拠文献

- ・改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—
 - 1 哺乳類. 2002年. 環境省
 - 2 鳥類. 2002年. 環境省
 - 3 爬虫類・両生類. 2000年. 環境省
 - 4 汽水・淡水魚類. 2003年. 環境省
 - 8 植物 I(維管束植物). 2000年. 環境省
 - 9 植物 II(維管束植物以外). 2000年. 環境省
- ・愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち
植物編. 2001年. 愛知県
動物編. 2002年. 愛知県
- ・岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001. 岐阜県
- ・名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや
植物編. 2004年. 名古屋市
動物編. 2004年. 名古屋市

表-2.2 既往の河川水辺の国勢調査でこれまでに確認された重要な種

調査項目	種数
魚介類	10
底生動物	8
植物	37
鳥類	26
両生類	3
爬虫類	4
哺乳類	9
陸上昆虫類等	24

表-2.3 庄内川で確認された魚類の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流部		矢田川
		惟信高校前	新名西橋	吉根橋下流	蛇ヶ洞川合流点	土岐津橋	三階橋下流
1 ヤリタナゴ	愛						●
2 イチモンジタナゴ	環 EN、愛、岐、名			●			
3 ゼゼラ	名			●			
4 スジシマドジョウ小型種東海型	環 EN、愛、岐		●				
5 アカザ	環 VU、愛			●	●	○	
6 アユ	名		●	●	○	○	●
7 メダカ	環 VU、愛、名						●
8 カマキリ	愛		●				
9 ドンコ	愛、岐、名					●	
10 アベハゼ	名	●					

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

記号 EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧 II 類

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

表-2.4 庄内川で確認された底生動物の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流部		矢田川
		惟信高校前	新名西橋	吉根橋下流	蛇ヶ洞川合流点	土岐津橋	三階橋下流
1 ヒロクチカノコガイ	愛、名	●					
2 モノアラガイ	環 NT、愛、名				●		
3 ナガオカモノアラガイ	環 NT、愛、名					●	
4 ミズムシ	愛	●	●	●	●	○	●
5 コシボソヤンマ	愛、名				●	○	●
6 ホンサナエ	愛、岐、名			●	●	●	
7 ナベヅタムシ	愛				●	○	
8 ミヤモトアシナガミゾドロムシ	愛				●		○

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

記号 NT：準絶滅危惧

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

表-2.5 庄内川で確認された植物の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流(渓谷)	上流(盆地)	矢田川
		St. 1~3(-2~5km)	St. 4~7(5~20km)	St. 8~11(20~40km)	St. 12~14、18、19(35~45、50~55km)	St. 15~17、20、21(45~50、55~59.6km)	
1 ヤシャゼンマイ	自、緑1				●	●	
2 カワラハンノキ	名			●	○	○	
3 サクラバハンノキ	環 NT、愛、岐、名				●		
4 ウラジロガシ	名			●	○	○	
5 ウナギツカミ	名		●	●		○	
6 ノダイオウ	環 VU、愛、岐						●
7 カワラナデシコ	名			●	○		
8 オオヤマフスマ	愛		●				
9 シデコブシ	環 VU、愛、岐、名		●				
10 シロダモ	名			●	○	○	
11 ヘビノボラズ	愛、岐、名			●	●		
12 ハナノキ	緑1、環 VU、愛、岐		●				
13 ヤブムラサキ	名		●	●	○		
14 シロネ	愛			●	●		
15 ハッカ	名			●			
16 ヤマハッカ	名			●	○		
17 ミヅコウジュ	環 NT、岐、名		●				
18 タツナミソウ	名		●	●	○		
19 アブノメ	名		●	●	○		
20 イヌノフグリ	環 VU、愛、岐、名		●	●	●	●	
21 カワヂシャ	環 NT		●	●	●		●
22 ナンバンギセル	名		●	●			
23 オトコエシ	名			●	○		
24 カワラハハコ	名		●	●		○	
25 ウラギク	環 VU、名		●				
26 リュウノウギク	名			●	○		
27 ウリカワ	名		●	●		○	
28 シバナ	環 VU、愛、名	●					
29 ヒルムシロ	名		●	●			
30 チゴユリ	名			●	○		
31 ノカンゾウ	名		●	●	○	○	
32 ウバユリ	名			●	○	○	
33 アオウシノケグサ	名			●	○		
34 ケタガネソウ	名			●	○		
35 サワヒメスゲ	愛				●		
36 シオクグ	名	●	●				
37 イセウキヤガラ	愛、名	●					

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

自：「自然公園法」による指定植物

緑1：「緑の国勢調査報告書(1976) すぐれた自然調査」掲載種

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

記号 VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

表-2.6 庄内川で確認された鳥類の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流部		矢田川
		河口	庄内綠地	吉根橋下	蛇ヶ洞川合流点	土岐市街	三階橋下
1 ヨシゴイ	愛、岐、名	●					
2 チュウサギ	環 NT、岐、名	●		●			
3 トモエガモ	環 VU、愛、名	●					
4 ミサゴ	環 NT、愛、名	●		●			
5 オオタカ	保存、環 VU、愛、岐、名			●			
6 ハイタカ	環 NT、愛、岐、名					●	
7 サシバ	愛		●				
8 チュウヒ	環 VU、愛、名	●					
9 ハヤブサ	保存、環 VU、愛、名	●					
10 イカルチドリ	愛		●	●	●	○	●
11 シロチドリ	岐、名	●	●				
12 オバシギ	愛	●					
13 オグロシギ	愛、名	●					
14 オオソリハシシギ	愛、名	●					
15 ダイシャクシギ	愛、名	●					
16 ホウロクシギ	環 VU、愛、名	●					
17 コアジサシ	環 VU、愛、岐、名	●		●			
18 カッコウ	名		●	●			
19 ツツドリ	愛		●	●			
20 ヤマセミ	愛、岐				●		
21 コシアカツバメ	名		●	●		○	
22 カワガラス	愛				●		
23 アカハラ	愛		●				
24 コサメビタキ	愛	●	●				
25 ホオアカ	愛、岐			●			
26 コイカル	名		●				

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物種の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種指定種及び緊急指定種

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

記号 VU：絶滅危惧 II 類

NT：準絶滅危惧

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

表-2.7 庄内川で確認された両爬哺の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流部		矢田川
		明徳橋下流	新庄内川橋下流	吉根橋	諏訪大橋	三共橋	三階橋下流
両生類							
1 トノサマガエル	名	●	●	●	○	○	●
2 ダルマガエル	環 VU、愛、岐、名				●		
3 カジカガエル	愛				●		
爬虫類							
1 クサガメ	名		●	●		○	●
2 イシガメ	名	●	●	●	○	○	●
3 スッポン	環 DD、愛、名		●			●	●
4 シマヘビ	名	●	●	●	○	○	●
哺乳類							
1 キクガシラコウモリ	愛				●		
2 ニホンテングコウモリ	環 VU、岐				●		
3 ハタネズミ	愛、名		●			○	●
4 アカネズミ	名		●	●	○	○	●
5 カヤネズミ	愛、名	●	●	●		○	●
6 タヌキ	名	●	●	●	○	○	
7 キツネ	名			●	○		
8 テン	愛、名				●		
9 イタチ	名		●	●	○	○	●

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックー」掲載種

記号 VU：絶滅危惧Ⅱ類

DD：情報不足

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

表-2.8 庄内川で確認された陸上昆虫類等の重要な種一覧表(H5~H13)

種名	指定区分	河口付近	下流部	中流部	上流部		矢田川
		惟信高校前	庄内緑地公園対岸	吉根橋下流	蛇ヶ洞川合流点	みつば保育園付近	三階橋下流
1 シロオビトリノフン ダマシ	愛、名			●			
2 ゲホウグモ	愛、名			●			
3 エビチャコモリグモ	名		●	●	○	●	
4 ミナミコモリグモ	愛、名				●		●
5 ハマキフクログモ	名	●					
6 アシナガカニグモ	愛		●	●			
7 カトウツケオグモ	愛				●		
8 ホンサンナエ	愛、岐				●		
9 ヒナカマキリ	愛				●		
10 アリツカコオロギ	名	●	●				
11 ハネナガイナゴ	名	●					
12 ニイニイゼミ	名		●		○	○	
13 イトアメンボ	環 VU		●	●	●		
14 ギンボシツツトビケラ	環 NT					●	
15 ギンイチモンジセセリ	環 NT、愛、岐					●	
16 ミドリヒヨウモン	名			●			
17 キベリマルクビゴミムシ	愛、名			●	●		
18 ミツノエンマコガネ	名		●	●		○	●
19 ヤマトタマムシ	名		●			○	
20 ヒメボタル	名			●			
21 ゲンジボタル	名			●			
22 ヘイケボタル	名			●		○	
23 クワカミキリ	名		●				
24 キアシハナダカバチモドキ	環 DD						●

○：地方版レッドデータブック掲載種のため、当該市県以外の確認地点では特定種とならない種。

根拠文献

環：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

記号 VU：絶滅危惧Ⅱ類

NT：準絶滅危惧

DD：情報不足

愛：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種

岐：「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物-岐阜県レッドデータブック- 2001」掲載種

名：「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや」掲載種

(7) 庄内川の代表種

庄内川の河川環境を特徴づける種(代表種)として、既往の河川水辺の国勢調査結果をもとに選定した種は、下記に示すとおりである。

表-2.9 区間別環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など(1)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息生育する主な代表種	集団分布地・繁殖地など
下流域	河口部	水域	干潟 汽水域	魚類	スズキ、ボラ、ビリング、マハゼ	カワウの集団分布地 シギ・チドリ類の集団分布地 カモ類、カモメ類の集団分布地
		陸域	ヨシ原	植物	シバナ、イセウキヤガラ、ヨシ群落、アイアシ群落、シオクグ群落	
				鳥類	チュウヒ、チュウサギ、トモエガモ、ミサゴ、ハヤブサ、ホウロクシギ、コアジサシ、シギ・チドリ類、カワウ、オオヨシキリ、ヨシゴイ	
				両爬哺	カヤネズミ	
	下流部	水域	瀬淵	魚類	スジシマドジョウ小型種東海型、コイ、ギンブナ、オイカワ、マハゼ、ウナギ、アユ、カマキリ	—
		陸域	ヨシ原 砂礫地 湿生草地 乾生草地 河畔林	植物	シデコブシ、ハナノキ、ミヅコウジュ、イヌノフグリ、カワヂシャ、ウラギク、ヨシ群落、オギ群落、ヤナギ類、エノキ群落	
				鳥類	サシバ、トビ、ゴイサギ、キジバト、ツバメ、カワセミ、スズメ、カワウ	
				両爬哺	カヤネズミ	
				陸上昆虫	イトアメンボ	
中流域	中流部	水域	瀬淵 ワンド等	魚類	イチモンジタナゴ、アカザ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ類、アユ、カワヨシノボリ	—
		陸域	砂礫地 湿生草地 乾生草地 河畔林 樹林地	植物	イヌノフグリ、カワヂシャ、オギ群落、ヤナギ類、コナラ群落、オニグルミ群落	
				鳥類	オオタカ、チュウサギ、ミサゴ、コアジサシ、ノスリ、トビ、チョウゲンボウ、シギ・チドリ類、キジバト、カワセミ、ツバメ、ヒヨドリ、スズメ、カワウ	
				両爬哺	カヤネズミ	
				陸上昆虫	イトアメンボ	

注) 青字の種は環境省レッドデータブック掲載種として選定されている種を示す。

赤字の種は上位種として選定されている種を示す。

緑字の種は典型種として選定されている種を示す。

黒字の種は移動種として選定されている種を示す。

※上記選定種は、河川水辺の国勢調査において現地確認された、庄内川の河川区域内に生息、生育する種。

表-2.9 区間別環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など(2)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息生育する主な代表種	集団分布地・繁殖地など
上流域	上流部	水域	瀬淵	魚類	アカザ、オイカワ、カワムツ類、アブラハヤ、カワヨシノボリ、ドンコ	イワツバメの集団繁殖地
				底生動物	モノアラガイ、ナガオカモノアラガイ	
		陸域	砂礫地 湿生草地 乾生草地 河畔林 樹林地	植物	サクラバハンノキ、イヌノフグリ、カワヂシャ、ヤシャゼンマイ、ツルヨシ群落、オギ群落、ヤナギ類、カワラハンノキ群落、コナラ群落、アカメガシワ-ヌルデ群落	
				鳥類	ハイタカ、トビ、オシドリ、シギ・チドリ類、ヤマセミ、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、カワガラス、ヒヨドリ、スズメ、カワウ	
				両爬哺	ダルマガエル、ニホンテングコウモリ	
				陸上昆虫	イトアメンボ、ギンボシツツトビケラ、ギンイチモンジセセリ	
下流域	矢田川	水域	瀬淵	魚類	メダカ、コイ、オイカワ、ヤリタナゴ	-
		陸域	砂礫地 湿生草地 乾生草地	植物	ノダイオウ、カワヂシャ、オギ群落、ヨシ群落	
				鳥類	チョウゲンボウ、シギ・チドリ類、キジバト、ツバメ、スズメ	
				両爬哺	スッポン、カヤネズミ	
				陸上昆虫	キアシハナダカバチモドキ	

注) 青字の種は環境省レッドデータブック掲載種として選定されている種を示す。

赤字の種は上位種として選定されている種を示す。

緑字の種は典型種として選定されている種を示す。

黒字の種は移動種として選定されている種を示す。

※上記選定種は、河川水辺の国勢調査において現地確認された、庄内川の河川区域内に生息、生育する種。

(8) 庄内川を特徴づける場所

庄内川を特徴づける場所(庄内川らしさを代表する箇所)としては、以下に示す 9 箇所が整理される。

表-2.10 庄内川を特徴づける場所一覧表

保全上重要な環境	位 置	環境の特徴
①河口の干潟	-2.0~0.2k 右岸 -1.0~0.3k 左岸	庄内川河口干潟は、隣接する藤前干潟と相まって国内最大級のシギ、チドリ類の渡来地として、ラムサール条約湿地に登録されている。
②湿地及びヨシ原	0.0~2.2k 右岸 0.2~3.4k 左岸	河口から明徳橋にかけて広がる湿地には、ヨシを中心とした抽水植物が広く分布し、カヤネズミやオオヨシキリ等の良好な生息場となっている。
③クロマツ並木	4.5~4.9k 左岸	堤防法面に連なる樹齢200年近くのクロマツ並木(約60本)は、松陰公園として親しまれ庄内川の緩やかな流れと調和している。
④竜泉寺下流付近	25.0~28.0k 付近	松川橋~八ヶ村用水堰付近は、中州や寄州が形成され、瀬が分布し変化のある流れをみせる。水際にはヤナギ群落やオギ群落などがみられ、竜泉寺裏の山林と一体となっている。
⑤内津川合流付近	28.0~30.0k 付近	河道が大きく蛇行し、大規模な礫州や瀬淵などが分布し、ツルヨシやヤナギ等の生育する良好な環境が維持されている。この区間の瀬は、アユの産卵場と推定されている。
⑥吉根橋上流付近	30.0~31.4k 付近	東名高速道路下り線守山PAの北側に位置するアカメガシワーヌルデ群落の落葉広葉樹林から成り、蛇行部に形成された淵の魚類の餌場や休息場として利用されている。
⑦野添川合流付近	31.4~34.0k 付近	高貝用水堰の湛水域に位置し、礫河原をはじめとしてコナラ群落やツルヨシ、オギ群落などの多様な環境が見られる。近傍には湧水を水源とした才井戸流れと呼ばれる小川も流れている。
⑧東谷橋付近	34.0~36.0k 付近	アラカシ、オニグルミなどの樹林は魚付林として機能しており、背後の山地へと連続している。また、支川大矢川はゲンジボタルの生息地となっている。
⑨山地渓谷	・玉野渓谷 (39.0~47.0k) ・虎渓山永保寺付近 (50.2~56.0k)	水際にはネコヤナギやツルヨシ、崖地斜面にはアラカシ、コナラ等の樹林が連続し、渓流性の多様な生物がみられる。 河岸の樹木や岩盤の露出、瀬淵の連続が一体となつた四季折々の渓谷美を呈している。



2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

上流域の渓流は自然景観に優れ、竜吟の滝、不動明王の滝、稚児岩などの名勝が点在している。庄内川の河川敷では2000万年～1500万年前の生物の姿を化石として見ることができ、瑞浪市の野外学習地として開放されている。

土岐盆地、多治見盆地には、美濃焼の伝統を伝える安土桃山時代の元屋敷陶器窯跡などの文化財が点在し、現在では支川の市之倉川、笠原川、高田川沿いには窯元や陶芸施設を巡る焼きものの散歩道がコース設定されている。また、瑞浪市の土岐川桜祭り、土岐市の織部祭り、多治見市の花火大会、西枇杷島の花火大会、矢田川花火、きねこさ祭りなどが行われ、庄内川はこれらの中心市街地を貫流することから、都市の景観軸として重要な役割を担っている。

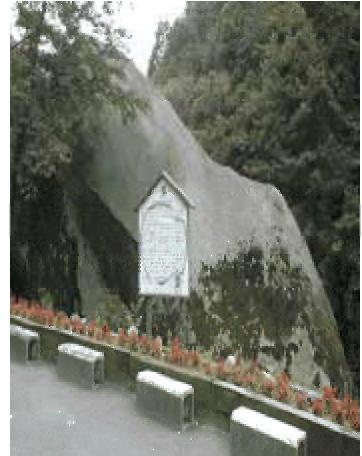


図-2.6 稚児岩

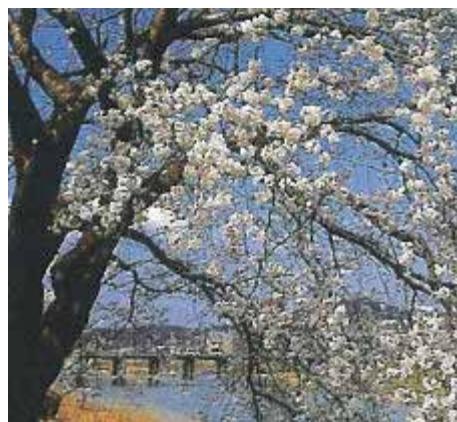


図-2.7 土岐津町付近



図-2.8 矢田川(全国選抜
大名古屋花火)

夢窓国師ゆかりの古虎渓、玉野渓谷の周辺には、鎌倉時代から虎渓山永保寺、定光寺、密蔵院などの寺院や社が建立され、近代においても神言修道会多治見神言修道院が設立されている。また、城嶺橋は古いアーチ橋で歴史的な風情を漂わせ、愛知高原国定公園の入り口としても親しまれている。

玉野渓谷を過ぎると、河川景観は礫河原が広がる扇状地の景観を呈し、背後の丘陵に広がる高藏寺ニュータウンや、沿川の里山と調和している。さらに下ると尾張候ゆかりの洗堰や、庄内川用水、万場の渡し跡、庄内用水元杅樋門、松蔭公園のクロマツ並木などの歴史的な景観資源を見ることができる。

下流域の周囲には市街地が連続し、河川景観も都市河川としての景観を呈し、高水敷には公園緑地やグラウンド、ゴルフ場、農地や市民農園などが整備され、水辺や緑に憩う人々や、サイクリング、ボートを楽しむ人々の姿を見ることができる。

また、名神高速道路や、JR 東海道本線、JR 中央本線などの橋梁が庄内川を横断し、大都市ならではの躍動的な景観を呈している。

河口部はヨシ原と干潟が広がるのどかな自然景観を呈し、野鳥観察館からは水鳥の姿を眺めるため、都市における重要な自然探勝の場として親しまれている。特に干潟は、国内最大級のシギ、チドリ類の渡来地として、ラムサール条約湿地に登録されており、貴重な河川景観を形成している。



図-2.9 土岐市土岐津町の渓谷



図-2.10 玉野渓谷



図-2.11 中志段味



図-2.12 名古屋市



図-2.13 河口部



図-2.14 藤前干潟

(2) 庄内川流域の文化財、歴史

1) 元屋敷陶器窯跡

美濃国最初の登窯と伝えられる元屋敷陶器窯跡は、慶長中期頃、美濃陶祖加藤景延がこの地域で初めて築いたといわれる。地上式横サマ有段連房式登窯で、長さ 24m、幅 2m、14 室からなる窯跡で、国指定文化財に選ばれている。



2) 美濃焼

岐阜県の南東部、東濃地方で焼かれるやきものの総称。尾張 [愛知県] の瀬戸焼に対して、美濃で焼かれたものを指す言葉として用いられる。可児市・多治見市・笠原市・土岐市・瑞浪市に広がる窯で焼かれたものという。美濃地方は、平安時代より土師器などが、鎌倉、室町時代には、山茶碗・古瀬戸などが焼かれ、現在も和食器の主要な生産地になっている。



3) 妻木城跡

妻木城主、土岐明智氏は美濃焼初期の窯跡のほとんどが妻木城主の領内にあること美濃焼の振興を支えていたと考えられる。戦国時代に入ると妻木氏がこの地方を治め、志野織部に代表される美濃焼の最盛期を築いた。この時期の代表的な窯跡に、元屋敷窯(土岐市泉町 国指定史跡)がある。妻木城は標高 409m の城山山頂に築かれた山城で、城郭遺構が岐阜県史跡に指定されている。



4) 小里城等の城跡

土岐氏の流れの小里出羽守光忠が天文 3 年(1534)に築城し、以降代々の居城となった。天正元年、武田方に攻略された岩村城を奪回するための拠点であった小里城は天下統一に力をそいだ信長の天下布武の跡をとどめる「小里城山城跡」として、県の史跡に指定されている。



5) 柿野温泉

その昔は薬師湯と呼ばれ、戦国時代には、尾州の織田勢、甲州の武田勢、三州の松平勢などの小ぜりあいや合戦で傷ついた武士達の療養の地であった。江戸時代には諸大名の湯治場として利用された。



6) 永保寺

土岐川を東に接している、正式名「臨済宗南禪寺派虎渓山永保寺」は、鎌倉時代の末期、正和2年（1313年）、夢窓疎石ら7,8人で庵を建てたのが草創である。その後、後醍醐天皇や後光明天皇の勅願となり、室町時代には僧坊の数も30坊を越え、全国でも屈指の禅寺として全盛を極めた。国・県指定の重要文化財などが多くあり、中世禅宗寺院の庭園は、春夏秋冬、美しい姿を現代に見せている。



7) 神言修道会多治見神言修道院

多治見の修道院は、1930年（昭和5年）宣教師モール神父によって、設立された。

日本における男子三大修道院の一つと呼ばれ、小高い丘に広がるぶどう畑、中世ヨーロッパを偲ばせる雰囲気を持つ神言修道院は、魅力あふれる修道院として多くの人々を惹きつけており、虎渓山の永保寺とともに多治見市の名所である。



8) 定光寺

応夢山定光寺は、1336年（建武3）に覚源禪師が開いた臨済宗のお寺で、尾張藩祖「義直」の靈廟のある菩提寺でもある。付近は名古屋の奥座敷ともいわれる景勝地で、春は桜、秋は紅葉の名所としてもよく知られている。



9) 白鳥塚古墳

東谷山麓西側に位置する前方後円墳で、全長105m、高さ約6m、後円部径約55m、前方部の最大幅約26mとなっている。白色石英の葺石が全面をおおいその美観が白鳥に似ていることから白鳥塚と呼ばれている。国の史跡に指定されている。



10) 密蔵院

嘉暦3年(1328)慈妙上人によって開山された医王山薬師寺密蔵院は、庄内川32.5k付近の右岸に位置する。寺運盛んな時代には塔頭三十六坊、3,000人を超える修行学侶がいたという。国指定文化財である木造薬師如来立像・多宝塔をはじめ、指定文化財は29件にもおよぶ。



11) 小長曾陶器窯跡

瀬戸市南東部の猿投山の北山麓にある古窯で、国の史跡に指定されている。室町時代中期のものと推定され、この時代の窯としては、唯一、ほぼ原型をうかがうことのできる貴重な遺跡である。



12) 万場の渡し跡

庄内川にかかる万場大橋から100m南の堤防に跡碑が立っているが、この付近に佐屋街道の渡船場があった。尾張名所図会に描かれた渡し船には馬2頭、客9人、籠、船頭2人が乗っている。このような大きな川船が行き来していたことは東西交流の多さを物語っている。



13) 佐屋街道

その昔、東海道を旅する人が熱田の渡しからの海路を避けて通った脇街道で、佐屋路または姫街道とも呼ばれた。万場の渡し跡から西に延びて大治町へと続く。街道沿には今でも火の見櫓、低い二階家、黒壁の家、高く土盛りした民家が並び、日本の昔の雰囲気が漂う。



14) 庄内用水元水樋

明治 43 年新木津用水の助水を得て、庄内川の水を名古屋市内に農業用水に取り入れるためと通舟路のために改築された樋門である。その構造はアーチ型の二門並列で、人造石が用いられているのが特徴。改修された形跡はなく、竣工当初の形状を保ち現存している。



15) 御用水

庄内川の水を名古屋城の内堀に引き入れるため、江戸時代に開削された用水路である。現在の守山区竜泉寺の西方、白沢川の合流点あたりから庄内川の水を取り、矢田川の三階橋あたりから名古屋城へ流れていた。昭和 48 年に埋め立てられ、緑の散歩道として整備された。夫婦橋から猿投橋までの約 1.6km に渡る桜並木が美しい。



16) 黒川樋門

明治初期、矢田川の川底の下にトンネルを掘って庄内川の水を堀川（黒川）へ入れた当時の面影を残す水門。御用水は江戸時代からあったものの堀留に架かる朝日橋までしか船が行き来できなかった。明治 9 年、御用水とほぼ平行に走る黒川を作ったことで犬山まで船が通行可能になり、名古屋の産業は大いに発展したといわれている。かつてここには庄内川から取り入れた用水を黒川や御用水などに分けるための池（通称天然プール）があった。



17) 名古屋城

慶長 17 年（1612）、徳川家康の子義直の居として家康の命により築城。戦災で焼失したが、昭和 34 年金のシャチをいただく大天守閣と小天守閣を再建。天守閣は、博物館相当施設に指定され所蔵品の展示や特別展に利用される。園内には、名勝二之丸庭園がある。



18) 龍泉寺

延暦 14 年（約 1160 年前）、最澄が熱田神宮参籠中に龍神の御告げをうけ、当地に赴き多々羅池より出現した銅造馬頭觀世音菩薩を本尊として寺堂を建立したのに始まる。境内は、庄内川左岸にあり広い境内には、重要文化財指定の仁王門のほか、文化財が数多い。



19) 二子山の古墳群

庄内川中流域右岸に、5 世紀前半から 6 世紀中頃まで継続して築かれた首長墓が味美古墳群で、中でも味美二子山古墳は尾張有数の規模を誇る前方後円墳である。古墳は支配者としての力を誇示するものであり、灌漑技術の進歩を伴いながら、次第にその範囲を拡大していった。現在は二子山公園の一角にある。



20) 新川の開削と洗堰

新川洗堰の築造と新川の開削は、時の尾張藩主徳川宗睦の命により、勘定奉行の要職にあった水野千之右衛門が人見弥右衛門とともに計画を立て、天明 4 年（1784 年）に着工した。庄内川の北堤を長さ 40 間（約 73m）にわたって半分の高さに切り下げて、大水の時には庄内川の水をこの堰から分流し、新たに開削した新川を通じて伊勢湾に流れるようにした。天明 7 年に完成したこれら一連の治水工事は「天明の改修」とよばれている。



洗堰とこれに続く新川は庄内川の右岸（北）側に作られたが、当時の庄内川の堤防は、もともと左岸側に比べて右岸側の堤防が低く作られており、これらはすべて名古屋城下を水害から守るために作られたものであった。

21) 七里の渡し

江戸幕府は、東海道に 53 の宿駅を定め、尾張熱田の宮と桑名に宿を設け、その間を「七里の渡し」とした。七里の渡し（約 28km）は、熱田の宮と伊勢參宮の一の鳥居である川口港までを結んでいたが、そのルートは長島の地先や青鷺川から白鷺川を経るもの等、天候、潮の干満、船の大小、積み荷の軽重によって選ばれた。



22) 萱津の藤

有名な下萱津のフジは樹齢 350 余年、花の房は 1m を越すほどの大藤であり、見頃は 4 月下旬～5 月上旬である。萱津神社のあたりの森は「あわでの杜」とよばれ、日本武尊と宮簣姫の悲恋の舞台となっている。日本武尊が東征の祈り、この森で休憩した。この森に姫が駆け付けた時には、すでに旅立ったあとで姫は大変悲しがった。その後、誰彼となく、この森を「不遇の杜(阿波手杜)」と呼んだと伝えられている。

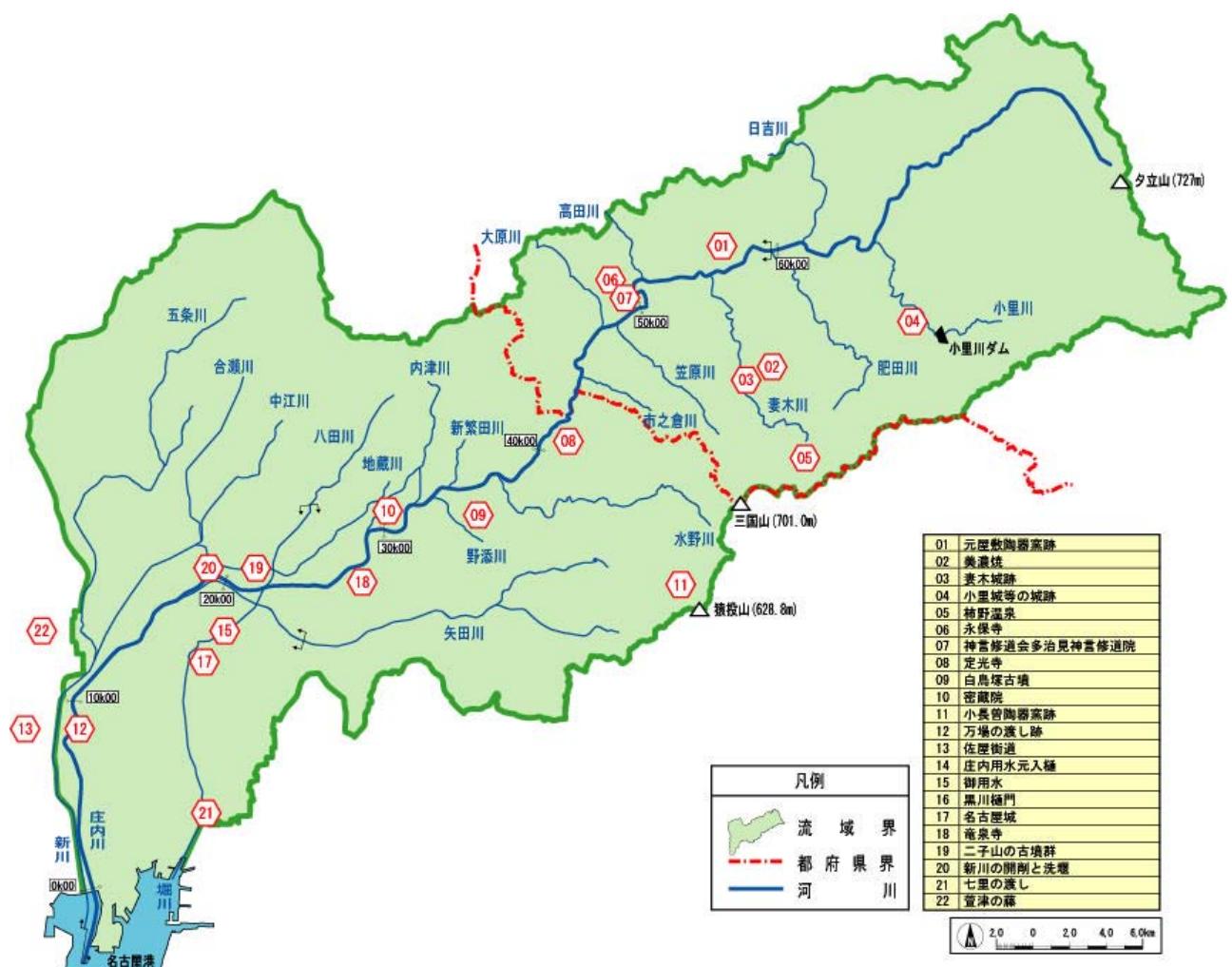


図-2.15 庄内川流域の史跡等位置図

(3) 庄内川にまつわる伝説・行事

1) 十五の森

場所：春日井市松河戸町

春日井市松河戸町あたり一帯は、かつて庄内川の水域で湿田が多く雨期になると毎年のように堤防が決壊し、多くの被害を出してた。

500 年前の明応 3 年のこと、出水期を迎えた村人達が氏神の境内で相談していた時、一人の占い師が通りかかり助けを乞うと、占い師は「水神に 15 歳の少女を生けにえとして捧げれば水神の怒りはおさまる」と告げた。そこで村人がくじを引いたところ、時の庄屋に当たり、親子は泣く泣くこれを承諾し、6 月 29 日に川底に沈められることになった。少女は白木の箱に入れられ、沈められたが、地上では娘の鳴らす鐘の音が 7 日 7 晩つづいたと言われた。

それから、この地には水害もなくなり、一望みな美田となって今日に至ったと伝えられている。この跡を十五の森と呼び、村人達は小祠を建て薬師如来を安置した。これを江戸時代の中頃に観音寺に移し、毎年命日には供養がなされ、供養の歌・踊りも奉納されて昔をしのんでいる。また、親子地蔵が昭和 44 年 5 月に建立され、そのかたわらには、「十五の森の由来記」が石に刻まれている。



2) 白狐温泉神明水

場所：瑞浪市釜戸町

昔、土岐川のほとりに天猷寺の大雲和尚が隠居して暮らしていた。ある夜、和尚がふと気付くと、前の大岩のもとで、真っ白な狐がじっとうずくまっていた。それが幾晩も続き、ある日、その狐が夢の中に現れ、「あの岩の下から靈泉が湧き、私はその泉で足のケガを治した所だ。」と教えてくれた。



そこを掘ると白狐の教えどおり、温かい湯がこんこんと湧き出てきた。この泉は、神明水と言われ、今も変わりなく湧き出ている。この神明水のほとりには天然記念物のヒトツバタゴがあり、毎年春にみごとな白い花を咲かせている。

3) 竜吟の滝

場所：瑞浪市釜戸町西大島地区～町屋地区

竜吟湖の下流にあり、緑濃い山の中で水しぶきを上げているにある竜吟の滝は、その昔、雄竜と雌竜がお互いを慕って呼び合ったとうい伝説にふさわしい風情をたたえている。周辺には、ナラ・クヌギ・カシなどの広葉樹林が見られる。竜吟の滝開きは6月第4土曜日に、竜吟の滝まつりは8月14日に近い日曜日に開かれる。



4) 不動明王の滝

場所：多治見市小名田町大石原

滝の高さは約10mあり、滝水は不動明王の祭られている岩の上からと、不思議なことにこの岩の途中からも流れ出し、いくつもの流れとなって落ちている。

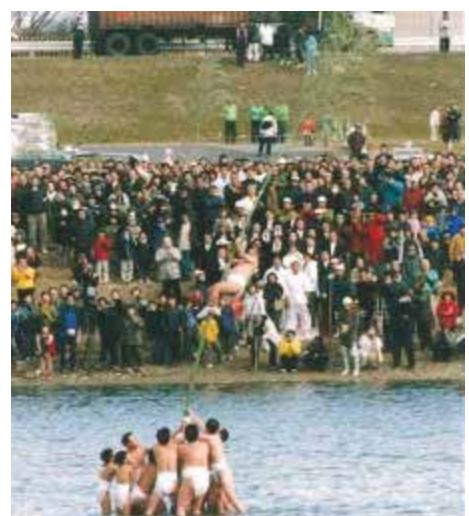
不動の滝の溪水は眼病に良いと伝えられている。それは昔、眼病にかかった小名田の伊兵衛が、不動明王の夢を見て、滝つぼから砂に埋もれていた不動明王を探し出し、それから毎日お参りし、不動の滝の水で眼を洗ったところ、21日目にはすっかり治ってしまったという言い伝えからである。毎年、7月28日には保存会により、滝開き不動尊大祭が開催され、昭和61年には、「岐阜県の名水」に選ばれている。



5) きねこさ祭

場所：名古屋市中村区岩塚町七所社

祭の起源は平安時代の元慶8年、西暦884年ごろから始まったと伝えられている。旧暦の1月17日に厄除け、子孫繁栄、天下太平、五穀豊穣などを祈念して行われる祭礼で、特に厄除けに靈験があると伝えている。「きねこさ祭」の名前は、祭りに使用する祭具のきね（たて杵）とこさ（杵からこすり落とした餅の意）に由来し「御田祭」とも言われている。尾張三大奇祭の1つであり、名古屋市無形民族文化財に指定されている。



6) 小田井人足

場所：名古屋市西区

江戸時代に、庄内川が増水して危険になると、尾張藩は名古屋城下を水害から守るために、役人をつかわして川向こうの小田井村の堤を切らせる命じた。小田井村の人々は、堤を切れば自分たちの家や田畠が大被害を受けるので、表面上は一生懸命働くふりをし、実際には少しも能率を上げずにわざと時間をのばし、ひたすら水がひくのを待った。このような史実から、怠け者を表す「小田井人足」の語が起こったといわれている。

7) 清一少年顕彰碑

場所：名古屋市中村区横井町

名古屋市街地の西郊外の景勝地の一つである横井山緑地には、昭和 11 年 7 月に友人を助けるために力尽きて水死した山田少年を讃える記念碑が建立されている。



2-4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

庄内川の中流域には、^{あいぎきゅうりょう}愛岐丘陵の一部である道樹山と三国山一帯が、愛知高原国定公園及び土岐三国山県立自然公園に指定されている。自然豊かなこの地域は、キャンプやハイキング等を通じて、四季折々地域の人々に親しまれている。

表-2.11 庄内川流域自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	景観・地形地質	公園面積
愛知高原国定公園	S45. 12. 28	瀬戸市、春日井市、豊田市、小牧市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稻武町、設楽町、作手村の各一部	隆起山地の準平原、渓谷美(神越渓谷、香嵐渓)	21,705ha
特徴	木曽山地の南端に位置し、愛知県北部の山岳地帯である三河山地の一部と、その西に連なる三河高原及び尾張北東部にある愛岐丘陵南部を含めた高原景観と矢作川上流部及びその支流の巴川を含めた地域の河川景観が特徴。 高原や渓谷の優れた景観地帯を縫うように東海自然歩道が整備されている。			

出典：環境省、愛知県データ

※ 東海自然歩道

東京「明治の森高尾国定公園」から大阪「明治の森箕面国定公園」までの1都2府8県にまたがり緑豊かな自然と貴重な文化財を結ぶ全長1,697kmの歩道。

公園名	指定年月日	関係市町村	主なみどころ	公園面積
土岐三国山県立自然公園	S44. 4. 1	土岐市	三国山、柿野温泉	1,516ha
特徴	標高が高く展望が優れ、濃尾平野を一望できる景勝地。山頂付近にはキャンプ場もあり、夏は多数の利用者で賑わう。			

出典：岐阜県データ



図-2.16 庄内川流域の自然公園等指定状況

(2) 鳥獣保護区

庄内川流域には、国設鳥獣保護区が1箇所、県設鳥獣保護区が15箇所(愛知県6箇所、岐阜県9箇所)が指定されている。

そのうちの藤前干潟鳥獣保護区、森林公園鳥獣保護区、虎渓山鳥獣保護区、土岐鳥獣保護区、松野鳥獣保護区の5箇所には、鳥獣保護区特別保護地区が指定されている。

表-2.12 庄内川流域の国設鳥獣保護区

NO.	設定	名称	指定期限	面積
1	国設	藤前干潟鳥獣保護区	～H24.10.31	770ha(323ha)

注:()は当該鳥獣保護区内に含まれる特別保護地区面積

出典: 愛知県鳥獣保護区等位置図

表-2.13 庄内川流域の県設鳥獣保護区(愛知県)

NO.	設定	名称	指定期限	面積
1	県設	森林公園鳥獣保護区	～H24.10.31	1,290ha(165ha)
2	県設	定光寺鳥獣保護区	～H24.10.31	1,300ha
3	県設	岩倉自然生態園鳥獣保護区	～H19.10.31	1ha
4	県設	小牧山鳥獣保護区	～H19.10.31	22ha
5	県設	春日井市少年自然の家鳥獣保護区	～H20.10.31	39ha
6	県設	小牧鳥獣保護区	～H18.10.31	315ha

注:()は当該鳥獣保護区内に含まれる特別保護地区面積

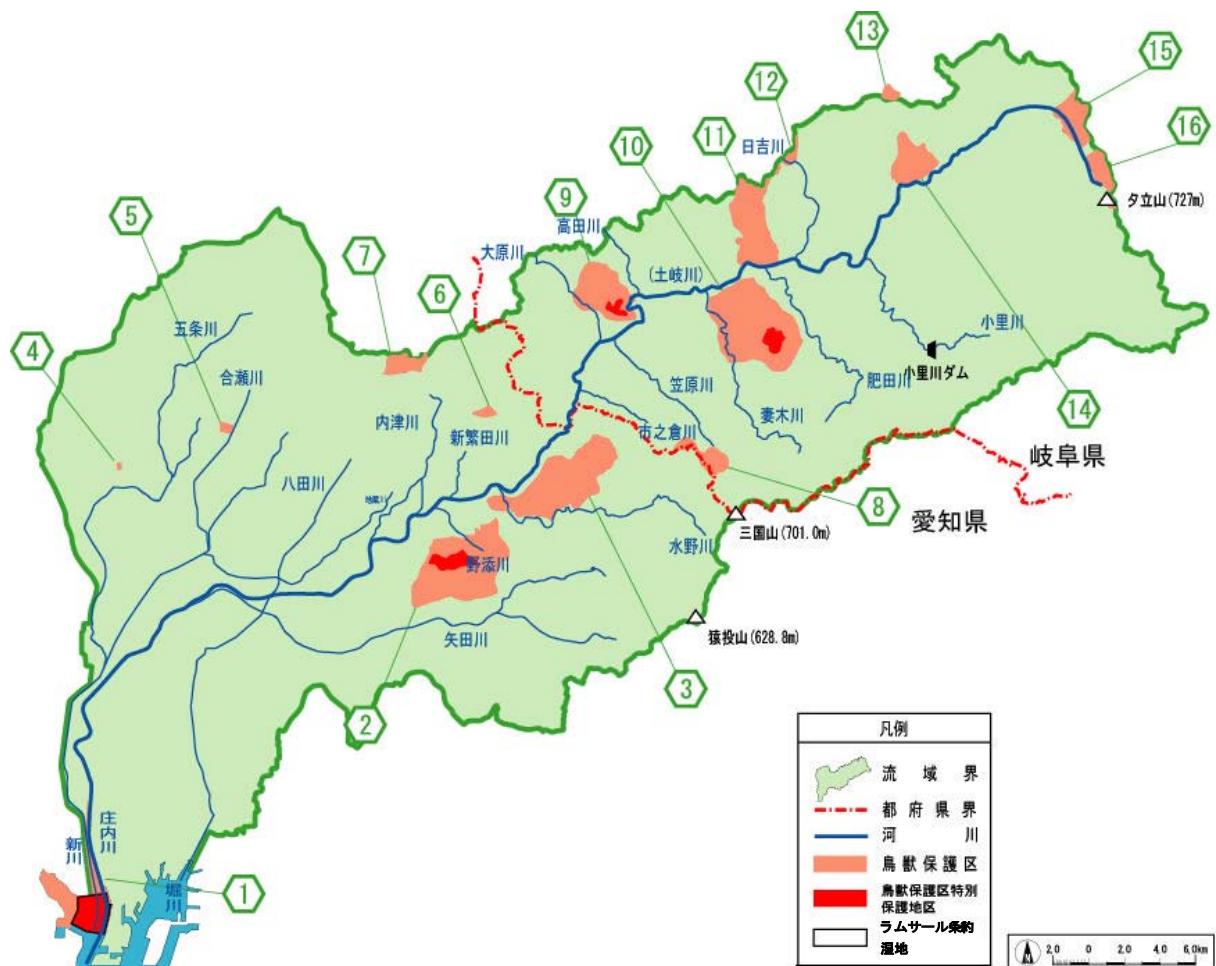
出典: 愛知県鳥獣保護区等位置図

表-2.14 庄内川流域の県設鳥獣保護区(岐阜県)

NO.	設定	名称	指定期限	面積
1	県設	かさはら潮見の森鳥獣保護区	～H21.10.31	139ha
2	県設	虎渓山鳥獣保護区	～H19.10.31	560ha(34ha)
3	県設	土岐鳥獣保護区	～H24.10.31	1,157ha(104ha)
4	県設	若人の丘鳥獣保護区	～H25.10.31	620ha
5	県設	松野鳥獣保護区	～H16.10.31	680ha(72ha)
6	県設	八瀬沢鳥獣保護区	～H25.10.31	10ha
7	県設	釜戸鳥獣保護区	～H24.10.31	377ha
8	県設	恵那高原鳥獣保護区	～H23.10.31	695ha
9	県設	阿木川鳥獣保護区	～H22.10.31	1,935ha

注:()は当該鳥獣保護区内に含まれる特別保護地区面積

出典: 岐阜県鳥獣保護区等位置図



注:⑪松野鳥獣保護区内の特別保護地区は庄内川流域外のため記載していない。

図-2.17 庄内川流域の鳥獣保護区等位置図

鳥獣保護区名称*****

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 藤前干潟鳥獣保護区 | 2. 森林公園鳥獣保護区 |
| 3. 定光寺鳥獣保護区 | 4. 岩倉自然生態園鳥獣保護区 |
| 5. 小牧山鳥獣保護区 | 6. 春日井市少年自然の家鳥獣保護区 |
| 7. 小牧鳥獣保護区 | 8. かさはら潮見の森鳥獣保護区 |
| 9. 虎渓山鳥獣保護区 | 10. 土岐鳥獣保護区 |
| 11. 若人の丘鳥獣保護区 | 12. 松野鳥獣保護区 |
| 13. 八瀬沢鳥獣保護区 | 14. 釜戸鳥獣保護区 |
| 15. 恵那高原鳥獣保護区 | 16. 阿木川鳥獣保護区 |
- *****